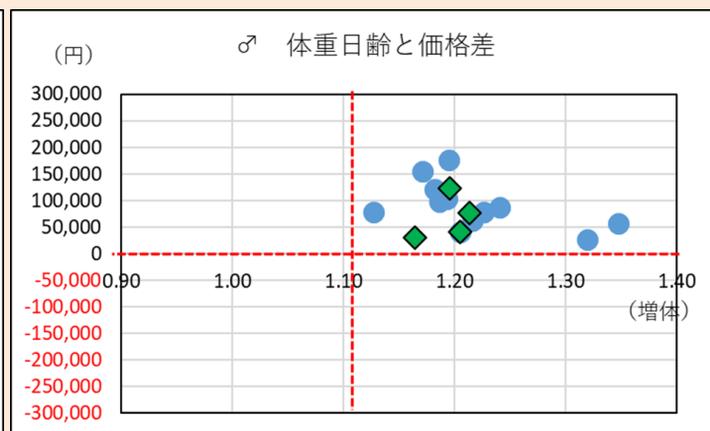
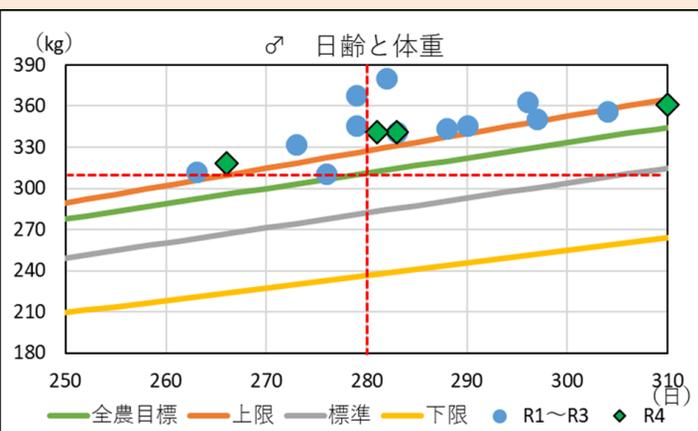




優良農家から知る子牛の育て方

宮古・岩泉管内の子牛販売優良農家から、**子牛を大きく育てる秘訣**を聞きました(ある優良農家は、下のグラフのように、過去数年間、子牛が**平均以上の発育**をしつつ、**販売価格も平均以上**でした)。



いくつか抜粋すると、

- ①病気にさせない(**初乳**、ワクチン・駆虫)
- ②子牛育成管理は母牛から始まる
(分娩前後の**増飼**)
- ③しっかり食べさせる
(**水！スターター！育成配合！牧草！**)
- ④快適な寝床でゆったり休む
(**暖かく乾いたところ**)

が挙げられていました。

初乳を飲ませよう

子牛は、病原体に対抗できる免疫抗体を持っていないほぼ**無防備な状態で生まれてきます**。「初乳」から**免疫抗体をもらう**ため、初乳の適切な給与が必要になります。

また、**優良農家では**生後2～3時間内に、**初乳製剤**を給与していました。

初乳給与のポイント

- ①生後6時間以内に、
- ②敷料や乳頭は清潔に、
- ③衰弱していたら乾いたタオルでマッサージ

分娩前後には増飼いしよう

分娩前後の母牛の管理は、**胎子の発育**や**母牛の泌乳**に影響を与えます。この時期から子牛育成管理が始まると言っても過言ではありません。

分娩前の栄養が不足すると・・・

子牛

- | | | |
|-----------|---|--------|
| ➤ 発育不十分 | ⇒ | 小さい新生子 |
| ➤ 虚弱・代謝低下 | ⇒ | 難産・事故 |
| ➤ 免疫機能低下 | ⇒ | 病気がち |

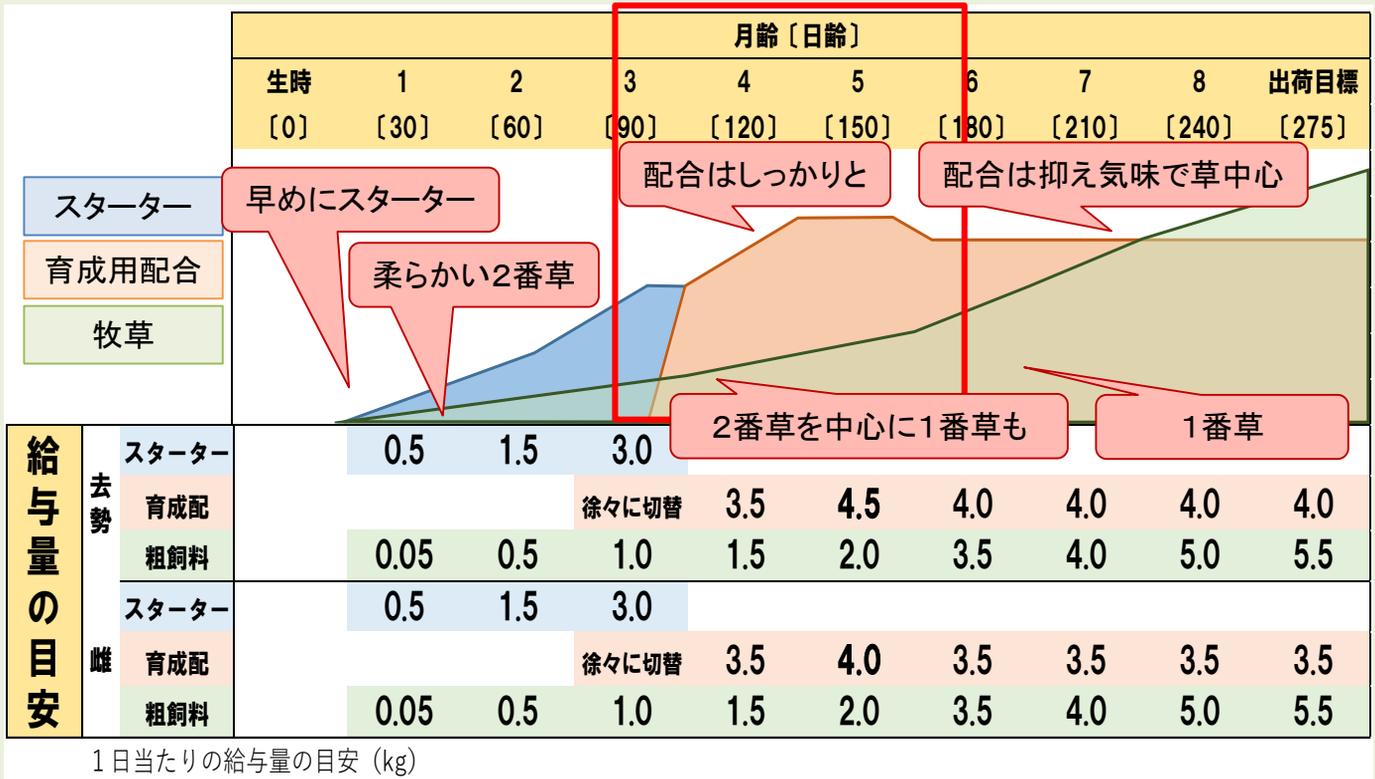
母牛

- | | | |
|------------|---|-------|
| ➤ 成長停滞 | ⇒ | 発育不十分 |
| ➤ 分娩後の乳量減少 | ⇒ | 母乳性下痢 |
| ➤ 栄養度低下 | ⇒ | 繁殖障害 |

増飼いの量は、牛の状態にもよりますが、牧草など粗飼料を十分に食べた上で、

配合飼料 1～3kg/日程度給与しましょう

とにかくしっかりと食べさせよう



各生育段階でしっかりと食べさせることが必要です。

優良農家では、①**スターター給与**、
②**牧草は飽食給与**、で管理していました。
また、**水は大事な飼料**です。**水飲み場は常にキレイに**しましょう



【給与量はどれくらい？】

給与量は把握していますか？
ボウルなどで給与していると思いますが、実際に何キロか確認してみましょう。

2キロあげているつもりでも、実は少なかった、という場合もあります。



快適な環境で過ごさせよう



上の写真を見比べてみて、どちらが子牛にとって良い環境か一目瞭然です。

左は体が汚れて、床に糞尿が溜まっています。右は体がきれいで、乾いた敷料をふんだんに使っています。

優良農家の子牛はいずれも**暖かく乾いた状態**で快適に過ごしていました。

優良農家は共通して、

「特別なことはやっていない、

当たり前前のことを**やっている**だけ」

と言っていました。

自分の飼養管理を振り返り、できることから取り組みましょう。

《子牛を大きく育てよう!》～岩手県肉用牛飼養管理マニュアル～



○ 哺育牛の飼養管理(寒冷対策) ★子牛は寒さに弱い!

哺育牛の適温は13~25℃で、13℃未満から「寒さ」を感じます。

岩手県内の月別平均気温では、10月から4月までは13℃を下回るため、**防寒対策が必要**です(秋口は勿論春先も油断せずに防寒対策を続けましょう)。

ネックウォーマーとカーフジャケットで保温しよう
(ヒーター使用も○)

コンパネ等ですきま風を防ぐ
(でも換気は忘れずに!)

新鮮な水(できればお湯)でスターターをしっかりと食べさせよう!

たっぷりの敷料と牛床マットで下から暖かく!
(濡れずに乾いた寝床!)

